

調查結果⑨

**European Waste Management Association
(FEAD、欧州廃棄物管理協会)**

European Waste Management Association (FEAD)

対応者: **Mr. Paolo Campanella** (事務局長)

場所: ブリュッセル市内FEAD事務所



協会概要

- 拠点：ベルギー・ブリュッセル
- 団体会員：欧州19ヶ国の廃棄物管理協会が加盟
(オランダDWMAも加盟)
- 会員企業数：約3,000社
- 事業内容：欧州の19ヶ国をカバーする廃棄物管理協会。廃棄物管理のバリューチェーン全体で活動する約3,000社を代表し、欧州委員会に対して廃棄物管理セクターの規制の枠組みに関する提言を行う。

欧州の廃棄物の考え方

欧州において物質が副産物に分類される要件は以下のとおり。これらに当てはまらない物質は廃棄物に分類される。

- 物質が特定の目的のために一般的に使用されていること
- 追加の処理プロセスが不要なく直接利用できること
- 既存の需要があること、製品に適用される現行法や基準を満たすこと
- 使用が環境や人の健康に悪影響を及ぼさないこと

欧州の家畜ふん尿の処理状況

- 家畜ふん尿は、欧州では農業からの副産物に分類され、農業セクターに関係する規則で管理されている。これは欧州における家畜ふん尿の利用状況が前述の副産物の要件に当てはまることや、欧州では歴史的に農業セクターの発言権が大きいことが背景にある。欧州においても廃棄物の処理には行政的な拘束があるため、農業従事者にとって家畜ふん尿は廃棄物であるよりも副産物である方がビジネスを展開しやすい。
- FEADの立場としては、家畜ふん尿は廃棄物セクターで管理したほうが、トレーサビリティの確保ができる体制が整っているため、適正処理につながるという考え。

欧州の家畜ふん尿の処理状況

- 廃棄物か副産物かで違いはあるが、欧州における家畜ふん尿の処理方法は基本的に日本と同様であり、土壌への直接投入や堆肥化、メタン発酵である。加盟国によってはエネルギー回収や廃熱利用、焼却灰の肥料利用を目的に直接燃焼を選択する場合もある。
- 規模の大きい畜産農家は自ら堆肥化を行う場合が多いが、堆肥の販売価格が低いことや1年のうち施肥可能な期間が限られていることから、製品の保管場所の確保等が課題である。

FEAD、家畜ふん尿からの特定の肥料原料の使用に関する理事会指令を改正する欧州委員会指令に関するFEADのフィードバック

May 17, 2024

FEAD Feedback on the Commission Directive amending the Council Directive on the use of certain fertilising materials from livestock manure

FEAD, the European Federation for Waste Management and Environmental Services, representing the private waste and resource management industry across Europe **welcomes** the Commission's latest Directive to amend the Council Directive 91/676/EEC on specific fertilizing materials from livestock manure. However, **FEAD believes that it is essential to clarify the status of RENURE (REcovered Nitrogen manURE) products**, especially if it needs to be subjected to the Regulation (EC) No 1069/2009, so called animal by-products Regulation and the relation in regards to the EU fertilizing products Regulation (EU) 2019/1009.

<https://fead.be/position/fead-feedback-on-the-commission-directive-amending-the-council-directive-on-the-use-of-certain-fertilising-materials-from-livestock-manure/>

廃棄物の追跡システム

- 欧州連合（EU）は2024年5月に廃棄物の輸送に関する新規則を発効し、EU域内で発生した廃棄物の輸送についてEUの中央システムで管理する方針を示している。
- 廃棄物が非有害か有害か、輸送先がEU域内か域外か等により運用方法に違いはあるが、EU域内で発生した廃棄物の移動については、廃棄物の排出者、輸送者、処分先、廃棄物の種類・量、処分方法等の情報の登録が必要である（自国内の移動の場合は任意登録の予定）。

廃棄物の追跡システム

- 追跡システムの書類は4枚のコピーが作成され、排出者、輸送者、処分先のプラントのサインを記入し、排出者に1枚が戻る仕組みである。

図：廃棄物輸送のための記入事項 (EU規則付属書)

Consignment information ⁽¹⁾			
1. Person who arranges the shipment Name: Address: Contact person: Tel. Fax E-mail:		2. Importer/consignee Name: Address: Contact person: Tel. Fax E-mail:	
3. Actual quantity: Tonnes (Mg): m ³ :		4. Actual date of shipment:	
5.(a) First carrier ⁽²⁾ Name: Address: Contact person: Tel. Fax E-mail: Means of transport: Date of transfer: Signature:	5.(b) Second carrier Name: Address: Contact person: Tel. Fax E-mail: Means of transport: Date of transfer: Signature:	5.(c) Third carrier Name: Address: Contact person: Tel. Fax E-mail: Means of transport: Date of transfer: Signature:	
6. Waste generator ⁽³⁾ Original producer(s), new producer(s) or collector: Name: Address: Contact person: Tel. Fax E-mail:		8. Recovery operation (or if appropriate disposal operation in the case of waste referred to in Article 3(4)): R-code/D-code:	
7. Recovery facility <input type="checkbox"/> Laboratory <input type="checkbox"/> Name: Address: Contact person: Tel. Fax E-mail:		9. Usual description of the waste:	
10. Waste identification (RV in relevant codes): (i) Basel Annex IX: (ii) OECD (if different from (i)): (iii) Annex IIA ⁽⁴⁾ : (iv) Annex IIIB ⁽⁵⁾ : (v) EC list of wastes: (vi) National code:			
11. Countries/states concerned:			
Export/dispatch	Transit		Import/destination
12. Declaration of the person who arranges the shipment: I certify that the above information is complete and correct to my best knowledge. I also certify that effective written contractual obligations have been entered into with the consignee (not required in the case of waste referred to in Article 3(4)). Name: Date: Signature:			
13. Signature upon receipt of the waste by the consignee: Name: Date: Signature:			
TO BE COMPLETED BY THE RECOVERY FACILITY OR BY THE LABORATORY:			
14. Shipment received at recovery facility <input type="checkbox"/> or laboratory <input type="checkbox"/>		Quantity received: Tonnes(Mg): m ³ : Name: Date: Signature:	

⁽¹⁾ Information accompanying shipments of green listed waste and destined for recovery or waste destined for laboratory analysis pursuant to Regulation (EC) No 1013/2006. For completing this document, see also the corresponding specific instructions as contained in Annex IC of Regulation (EC) No 1013/2006.

⁽²⁾ If more than three carriers, attach information as required in books 5 (a), (b), (c).

⁽³⁾ When the person who arranges the shipment is not the producer or collector, information about the producer or collector shall be provided.

⁽⁴⁾ The relevant code(s) as indicated in Annex IIA to Regulation (EC) No 1013/2006 are to be used, as appropriate in sequence. Certain Basel entries such as B1100, B3010 and B3020 are restricted to particular waste streams only, as indicated in Annex IIA.

⁽⁵⁾ The BEU codes listed in Annex IIIB to Regulation (EC) No 1013/2006 are to be used.

廃棄物の追跡システム

- 廃棄物はリサイクルが可能で無害な廃棄物のリストであるグリーンリストと有害な廃棄物のリストであるアンバーリストに分けられ、グリーンリストはすべての登録手続きがデジタル化される前提でシステムが構築されている。また、廃棄物の輸送について管轄当局への事前の通知や同意が必要ないため、廃棄物の輸送に時間がかからない。一方、アンバーリストの場合は廃棄物の輸送について管轄当局に事前に通知する必要があり、廃棄物の排出国と輸送先の国での書類確認が必要であるため、グリーンリストの輸送よりも時間がかかる仕組みである。

廃棄物の追跡システム

- 新規規則が適用されるのは**2027年5月**であるため、今後数年をかけて**EU加盟国の廃棄物の輸送体制が整備されていく**と考えられる。本システムにより、**EU域内で統一された廃棄物情報の収集・公表が可能**となる。
- **FEAD**は、加盟国の廃棄物の埋立状況の周知により、リサイクル可能な材料の有効活用の方策を検討する材料としてデータが活用できると考えている。また、既に同様のシステムを導入しているイタリアでは、システムの利用を通じて関係者間でコミュニケーションがとれ、同品質の廃棄物を集めやすいという声があるとのことであった。

<参考> Waste shipments (European Commission)

https://environment.ec.europa.eu/topics/waste-and-recycling/waste-shipments_en

再生プラスチックの状況

- 欧州では再生プラスチックは高価であるため、プラスチック製品メーカーや消費者からの需要が少なく、利用促進が課題である。
- 再生プラスチックの競合相手は、中国等から流入するバージン材、再生プラスチックである。欧州では、飲料ボトルに使用するプラスチックの材料に再生プラスチックを一定量使用することで、定期的な再生プラスチックの需要創出を狙っているが、プラスチック製品メーカーは欧州域外からの安価な材料を使用している。しかし、欧州域外から入ってくる再生プラスチックは、欧州の求める再生プラスチックの基準をクリアしているか否かが見た目では判断できないうえ、プラスチックの見た目のきれいさから、バージンプラスチックを再生プラスチックとして輸出している疑いもある。

再生プラスチックの状況

- **FEADの立場では、欧州域内で使用する再生プラスチックは欧州域内で生産されたものに限定したいが、世界貿易機構(WTO)の規定によりできないため、欧州域外から流入してくる再生プラスチックの品質が欧州の基準と同等程度であるかを第三者機関が認証する仕組みや、再生プラスチック製造プラントを許可制にする対策が求められる。**
- **FEADは、第三者機関による再生プラスチックの品質認証体制の構築に関する要求事項を欧州委員会に提言している。欧州委員会からは、欧州委員会には認証制度を運営するキャパシティがないとの回答を受けている。**
- **欧州域内で発生したプラスチックの処理が課題であるため、まず発生量を削減することを方針としている。シングルユースのプラスチック製品の削減や、製品の材料に再生プラスチックを一定量使用する取組みを行っている。**